

VIII. 整備・利用管理計画

1. 斜面の現況と安定

● 斜面の地質

計画地には、いたるところに基盤岩の露頭が見られるが、基本的なものとして、岩質は凝灰岩とシルト岩がある。

右の写真は、淡灰色の凝灰岩が露頭した写真である。全体に均質だが、所により2 cm程度の粒径不均一な砂の薄層を挟んでいる。隣接する道路の建設による切土で形成された急斜面と推定され、落石対策として覆式ロックネットが施工されている。斜面高は低く、大きな崩壊が発生する可能性は低いが、最大40 cm程度の落石がある。



写真. 計画地境界付近の凝灰岩の露頭

● 斜面の安定性

地形図(S=1/2, 500)からは、地すべり地形を呈す箇所が数多く見られるが、現地にて確認したところ、明瞭なものは七里ガ浜東5丁目と竹ヶ谷の2箇所である。このうち竹ヶ谷は比較的新しいもので、緩慢に活動している可能性がある。このほかに、非常に小規模なものが数多くみられる。また、頭部滑落崖が明瞭で比較的規模の大きなものが数箇所あるが、七里ガ浜東を含めて全体的に古く、活動している徴候は認められない。

斜面崩壊は、小規模なものから大規模なものまでさまざまなものが数多く見られるが、ほとんどが崩壊跡である。斜面全体が不安定なものではない。模式的な崩壊跡として、日蓮上人雨乞池の東側にある尾根部があげられるが、これは地すべり発生後にその両側部で斜面崩壊が発生し、現在の沢地形が形成されたものと考えられることができる。

このように、地すべりはほとんどが古いものであり、斜面崩壊は沢状の凹地形を形成した崩壊跡である。地表概査のレベルであるが、早急に安定対策を行う必要があると判断されるものは認められない。

● 斜面安定上の問題点

斜面の安定性と植生維持の観点から、注意すべき事象を以下に示す。



写真. 木の根の露出

全体に急勾配の斜面が多く、浅所より基盤岩が分布するために表土層が薄い。このため、雨水浸食によって表土が流され、樹木の根が露出するなどにより、今後斜面を不安定化させる要因となる事象がみられる。



写真. 下草の欠如

北西向斜面であることもあるが、樹木が密生することによって地山に光がとどかず、下草がほとんどない斜面がある。



写真. 地すべり土塊

小規模な地すべり土塊が放置され、荒廃した斜面となっている(人の手が入らないといずれこのようになる)。



写真. 樹木の傾倒

山王下から広町にかけての急崖部は、樹木の傾倒が著しく、全体に不安定な状況にある。



写真. 残土・廃棄物

七里ガ浜2丁目には、荒廃した残土斜面がある。雨水の流路となっている部分は土石流状で樹木が少ない。